

# 教科等研究会（小学校生活・総合的な学習部会） 平成29年度 研究活動のまとめ

## 1 研究テーマ

豊かな体験に支えられ 学びをつなぎ 学びを深める子どもの育成  
～児童一人ひとりが輝く授業づくりを通して～

## 2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	場所	内容	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
五月二十五日 (木)	二十三人	広安小学校	八月八日 (火)	中島小学校	体験研修・講話 講師 食の名人 藤本様大濱様	十月二十六日 (木)	広安小学校	広安小 一年担任 中村 清香 教諭	一月二十六日 (金)	御船小学校	御船小 一年担任 河島 加奈 教諭

## 3 研究の概要

### (1) 研究の内容

平成25年度に熊本県小学校生活科・総合的な学習の時間研究大会を上益城郡で開催して以来、その研究をより深めてきた。新たに会員となった先生方にも、研究の成果を広めていくために、これまでの研究の成果と課題をふまえながら研究テーマ等を設定し、研究を進めてきた。さらに、上益城郡教科等研究会全体テーマを受け、「児童一人ひとりが輝く授業づくり」をサブテーマに掲げ、研究を行ってきた。

#### ① 研究主題について

##### ○「豊かな体験」とは

子どもたちの中に感動や葛藤が生じ、知的好奇心を高め、探究的な学習へつなぐことができる体験

##### ○「学びをつなぐ」とは

子どもが「探究的」「横断的・総合的」「協同的」な学習を発展的に繰り返し、気付きの質を高めたり、思考を広げたり深めたりしていくこと

##### ○「学びを深める」とは

自分のよさや成長が分かり、学習したことを自分の生活や生き方に生かし、社会の中での自分を見つめ、主体的に行動していこうとすること

#### ② 研究の視点について

研究の視点1	探究的な学習過程における豊かな体験活動の工夫
研究の視点2	気づきや考えを整理・分析・表現・交流する言語活動の充実
研究の視点3	子どもの学びをつなぎ深める指導と評価の工夫

## (2) 成果と課題

年間反省のアンケートより（○成果 ●課題）

- テーマについては、実践しやすく良いという意見、継続してほしいという意見が多かった。  
「いろいろな体験を通して児童は成長するもので、その中で立ち止まって考えさせることで思考が深まる授業にしていきたいと思う。」「学びをつなぎ、深めるということが生活科の授業では大切だと思う。」「豊かな体験について、自分の学校で実践できることを模索していきたい。」等の意見があった。
- 研究授業では、児童がいきいきと活動したり、気付きを交流したりする姿が見られた。2回の授業研究会において、「活動→気付きの交流→活動」という繰り返し、気付きを試す児童の学びをつなぎ深める過程の重要性を再確認することができた。研究会では、小グループで意見を交流する時間を設け、会員も互いに学び合う充実した研究会となった。
- 体験研修では、ふるさと食の名人の方に直接教えていただき、貴重な体験となった。上益城の素晴らしさを再認識できた。生活科や総合的な学習の時間では、地域の方から学ぶという視点を大切にして、児童が故郷のよさを実感できる学習を作っていきたいと感じた。
- 本研究会の会員の担当学年が、ほぼ低学年に限られており、今年度の研修会で総合的な学習の時間の授業研究会を実施することができなかった。新学習指導要領においても総合的な学習の時間の重要性が謳われている。来年度は、総合的な学習の時間の授業研究会を実施したい。
- 外国語活動が教科化されることで、総合的な学習の時間の時数が削減されることとなった。年間計画を見直し、有意義な体験活動と学習活動が繰り返される年間計画を作成していくことが求められている。

## 4 実践事例

### (1) 授業の概要

第1学年 生活科 単元「つくろう あそぼう」

授業者 中村 清香 教諭（益城町広安小学校）

#### ① 研究の視点にそった授業づくり

研究の視点1「探究的な学習過程における豊かな体験活動の工夫」

- ・遊びの中で、児童の「もっとこうしたい。」という思いや願いを大切に、みんなで目的を共有して活動できるようにする。
- ・一つの遊びを全員で行うことで、共通の話題で児童が気付きを交流することができるようにし、気付きの質が高まるようにする。

研究の視点2「気付きや考えを整理・分析・表現・交流する言語活動の充実」

- ・活動の途中で気付きをまとめたり交流したりする時間を設け、その気付きをふまえて、さらに試したり工夫したりする活動を繰り返す。
- ・児童が気付きや考えを伝え合う際、実際に児童がつくった道具を見せたり、実演を交えたりすることで、児童が伝えたかったことがより具体的に伝わるようにする。また、板書に残す際に、ポイントごとに分類・整理し、簡潔な言葉や絵でまとめることで、視覚的に分かりやすいようにする。

研究の視点3「子どもの学びをつなぎ深める指導と評価の工夫」

- ・振り返りシート等を、遊びの種類や工夫の視点ごとに分類・整理して教室に掲示し、児童がいつでも振り返ることができるようにする。
- ・活動の様子を写真に残すことで、これまでの活動を振り返る際に、全員が同じ場面を振り返ったりイメージしたりできるようにする。

## ② 授業研究会

### ○自評から

- ・「なつのおそびをしよう」で、マヨネーズの空容器等を使って、水鉄砲遊びを行った。既成の水鉄砲で遊んだ経験はあるものの、遊びを身近なものを使って生み出していくという経験は少なく、もっとやりたいという児童の願いがあった。それで、この単元を設定した。
- ・一つの遊びを全員で行って、気づきを交流していくことで、つながりや深まりが出てきた。意見の交流のさせ方としては、絵で表させて、「なぜ、そんなふうにしたの？」と問うという方法もあった。

### ○質疑応答・協議から

- ・最初の活動 10 分、交流後の活動 10 分という流れがよかった。児童の集中が継続し、さらに意欲の高まりが見られた。また、玉もよく考えられたものとなっていた。
- ・「グループで、おすすめの玉を決めよう。」という指示は、児童の意見の交流を生み出すだろう。
- ・教師の与えすぎは禁物で、自由な活動の中から自由な発想が生まれ、伝え合ったり教え合ったり交流することでよりよいものを作ることができると感じた。

### ○指導助言から

- ・きめこまやかな準備（場作り、材料、ICT等）ができていた。一時間の見通し（①やってみよう②1かいせん③きづいたことをつたえあおう④やってみよう⑤2かいせん⑥ふりかえりシート）や約束が示されていて、児童が見通しをもって安心して活動できた。
- ・発言するときは、まかせて語らせる、感じたことを変えさせる、伝えたいような手立て（実演するなど）を持っておくことが大切である。
- ・評価は、単元を通して1シートを目安に、発言や思考、気づきなどを観察し記録していくとよい。

## (2) 学習指導案

### ① 単元の目標

身近な自然物や、身の回りにあるものを使って、おもちゃを工夫してつくったり、遊び方を工夫したりして、遊びの面白さや自然の不思議さに気づき、安全に気を付けて、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。

### ② 単元の評価規準

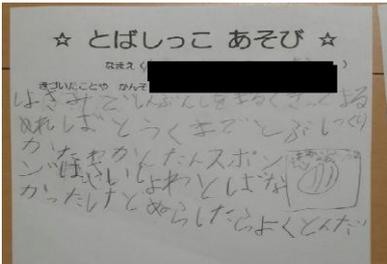
A 生活への関心・意欲・態度	B 活動や体験についての思考・表現	C 身近な環境や自分自身についての気づき
身近な自然物を使って、遊びに使うものをつくったり、遊んだりすることに関心を持ち、みんなで楽しく遊ぼうとしている。	自然物や身の回りにあるものを利用して、遊びに使うものを工夫してつくったり、みんなが楽しく遊べるように、約束やルールを考えたりしながら、みんなで楽しく遊んでいる。	自然物を利用して遊んだり、遊びに使うものをつくったりすることの面白さや、自然の不思議さ、秋の自然物を使ってみんなで遊ぶことの楽しさに気付いている。
①楽しくとぼしっこあそびをしようとしている。 ②自分たちで集めた葉や木の実に関心を持ち、それらの特徴を生かしたおもちゃや楽器を作ろうとしている。	① 気づきを生かして、道具や遊び方を工夫している。 ② 集めた自然物の中から使ってみたいものを選び、試したり、見立てたり、工夫しながらおもちゃや楽器を作っている。 ③ 実際に遊ぶ中で、みんなが楽しく遊べるように考え、遊びのルールや約束を工夫している。	①友達と比べたり、繰り返し試したりしながら、遠くに飛ばすためのこつなどに気付いている。 ②秋の自然物を使って、おもちゃや楽器をつくることの面白さに気付いている。 ③遊びのルールや約束を工夫すると楽しく遊べることや、友達のおもちゃや楽器には自分のものとは違うよさがあることに気付いている。

③ 本時の学習

ア 本時の目標

遠くに飛ばすための玉の工夫を考えることで、空気の性質の不思議さや、おもちゃを工夫する面白さに気付いている。

イ 本時の展開

過程 (分)	学習活動	教師の指導・支援及び指導上の工夫 (○発問、指示・指導上の留意点 ☆評価)	備考
導入 (5)	1 前時の活動を振り返り、本時のめあてをつかむ。	○この前は、どんなことをしましたか。 今日は、玉を工夫します。 ・どばしやすいいペットボトルを前時に選んでおく。 ・材料を確認させる。班ごとにまとめておく。 ペットボトル・新聞紙・ティッシュ・スポンジ・紙ねんど・テープ・水など	前時の様子の写真
	めあて	どんなたまが とおくまでとぶか かんがえよう	
展開 (30)	2 ペアで話し合い、いろいろな玉でとばしっこ遊びをする。  3 1回戦を行い気付いたことを伝え合う。	○どんな玉が遠くに飛ぶか、お隣さんと相談してみよう。 ○どんな玉がいいか、とばして試してみましょう。  ○どんなたまがよくとんだか、教えてください。	グループごとに、材料をまとめたらしい
	言語活動 (設定の意図) 伝え合うことで、ただ遊ぶのではなく、工夫の視点をもつことができるようにする。	 ・児童が作った玉を見せたり、実演させたりする。 紙粘土を新聞で巻いて、テープでとめました。	実物 投影機
	4 気付きをふまえて、もう一度遊ぶ。	○もう一度、試しましょう。 ・交流後に、もう一度試す時間を設定する。 	「たまでとどけ！ 1, 2, 3！」 「うちゅうまで、とんだぞ。」
終末 (10)	5 2回戦を行い本時の学習を振り返る。	 ○こんな玉でも遊べます。 ・身近にある他の道具も見せることで、広がりを持たせる。	【評価】(気付き) どんな玉が遠くに飛ぶか、気付きをシートにかくことができる。 (発言・シート)  ・絵や言葉を使って、気付きや感想をまとめさせる。
			じゃがいも オアシス